

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300980		
法人名	医療法人社団井上会		
事業所名	みんなの光		
所在地	熊本市南区城南町今吉野806-1		
自己評価作成日	平成31年1月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成31年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高台にあり、城南町今吉野一帯を見下ろすことができます。また阿蘇の山も見渡すことができます。毎年たくさんの花を付ける大樹の桜は実にみごとです。今年も晩白柚が大きな実をつけ、入居者様も喜ばれています。自然に囲まれ狭いながらも9人の方がゆっくりと穏やかに過ごされています。同敷地内に母体の病院があるので、急病時の対応も安心です。また、入居の際の一時金が不要で、利用料金が安く設定されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季折々の自然を眼下に一望できるリビングで、入居者の要望を大切にしたい食事がそれぞれの状態に合わせて提供されており、食べる楽しみや満足感と共に生きるエネルギー源となっている。隣接する法人施設との医療や行事・災害時などの連携と協力関係、職員同士、何でも話し合える関係が構築されている。また、運営推進会議での活発な意見・提案と情報の交換、家族の外出・外泊と通院などの協力がみられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	字を大きめにして見やすくし、申送り時や勉強会時に目標を話し合い、職員全員が理解したうえでそれに沿ったサービスを提供している。	理念はパンフレットに載せ、玄関と事務室に目につき易いように掲示している。介護計画作成時やケアの検討時に理念に沿った支援になっているかの振り返りを行い、入居者や家族と職員の話し易い関係づくりに努めて、要望に応える生活の実現を目指している。	昨年は、日々の生活を円滑にする実技指導が中心となっていたとの反省があり、今後は利用者主体の認知症介護の充実に重きを置いた上で理念をケアに反映させていくことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年法人全体で小学生・園児の慰問を受け入れしている。近所の方とお会いした時は、積極的に挨拶している。	車が往来する道路側の高台にあるホームは、数少ない民家と畑を介して立地していて、日常的な交流が持ちにくい環境にある。自治会に加入しているが回覧板ではなく、運営推進会議を通じて情報収集をしている。隣接病院に来院する方々との挨拶を交わす関係を大切にしている。	ホームにも回覧板を回してもらって話題に挙げるなど、地域情報をホーム運営に活かして地域とのつながりを継続する取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への偏見・差別をなくすことの重要性を認識し、運営推進会議に地元の自治会長さん、民生委員さん達に出席を呼びかけご理解いただき貢献できるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回会議を開いている。家族、自治会長、民生委員、ご家族の方に出席していただき、近況報告やサービスの実施等について報告している。さらにご意見・要望をお聞きして話し合いを行い、ご希望に沿ったサービスの提供している。	会議には地域包括支援センターからの出席もあり、運営状況の報告後、介護関連の新聞記事などをもとに意見交換を行い、それぞれの立場からの情報提供がある。防災訓練に参加した委員からは具体的な避難方法について、家族からは訓練の継続が円滑な避難に繋がった事例、ホームからは法人全体で見守りの強化について等があり、会議の有益性が確認されている。	会議は事務室で開催しているが、電話や面会対応などで進行が中断されることが予測される。時には、見晴らしの良いリビングの一角で行い、入居者も交えた場にとすると、入居者への理解度も増し更に充実した会になると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出の際は、持参して挨拶できるよう努めている。	市担当課には、介護認定更新・外部評価結果報告・事故報告時などに出向いている。介護報酬改定時の質問などには、その都度、適切な対応を得ており、困り事など相談しやすい関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない。」をみんなでモットーにケアを行っている。玄関の施錠は、夜間のみ。言葉による拘束にも十分注意を払っている。	前年度の目標達成計画に「入居者が遠慮のない環境で楽しく気兼ねなく安心できる暮らしができる」を挙げ、大声の言葉による虐待や拘束をしない支援を目指している。職員同士が注意し合う関係を築き拘束にならないかの振り返りを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修など的高齢者に対する権利擁護などを学び、職員全員で防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などで高齢者に対する権利擁護などを学んできた職員が井上会全体の職員に院内研修において周知徹底を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書にサイン・押印をいただく際、必ず内容を詳しく説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議のほか、家族の来居時に入居者と会われた後、事務所で近況報告する際、意見・要望もお聞きしている。また、苦情相談窓口も設けてあり、ご意見箱も設置している。	毎月の支払い時、排泄用品の持参時、面会時等を意見を聞く機会にしている。玄関の意見箱を改善し、苦情受付窓口を解りやすく表示する等して積極的に要望や苦情を受ける姿勢を示している。職員は面会時のお茶のもてなしに副菜を一品添え、感想や調理法などを語り合う中で、他の要望をも聞き取る機会にし運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の送りや、勉強会で、自由に発言できる雰囲気作りをしていて、実態を把握し提案をうけいれるように心掛けている。	昨年の法人内異動後、ホーム内職員の経験年数の幅があるが、話し易い関係が築かれている。半年一回の管理者との個人面談やホームへの提案・要望は、法人の責任者会議で検討され、決定事項は申し送りノートに整理して記録し、情報共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数がまちまちであるが、家庭的な雰囲気をもっとして、職員に受継がれている。はたらき甲斐のある職場作りにつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護・看護実践者研修やフォローアップ研修などに参加したり院内での研修等に参加している。グループホーム内においてもその都度実技指導等でレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	院外研修や講演会等に積極的に参加し、他ホームの職員と情報交換を行い、お互いにサービスの向上をはかっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思の疎通が難しいときは、しぐさや表情、言葉使い等を観察して、傾聴し、寄り添い、安心感を持ってもらい本人の思いを引き出せるように、日頃から話しやすい雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや要望などまた世間話に気軽に相談していただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なときは、併設の病院や老健施設などの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	衣替えの時期には、一緒に衣類の整理をしたり、洗濯物たたみや収納をしている。親近感や信頼感を持ってもらえるように努め、レクでは、カラオケや体操、雑談、ボール遊びで共有の時間を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等でいろいろな相談事をお話してできるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活がスムーズに引き続けることが出来るように、利用者様や家族からいままでの生活環境を聞き取り、情報を把握し、職員間で共有しながら、ケアに生かされるように努めている。	面会時に馴染みの美容室に行ったり、ドライブ・散歩・専門医受診後に喫茶店に寄るなどの家族の協力が得られている。自宅での冠婚葬祭、正月の外泊、家人のお祝いなども家族の送迎で実現している。職員は入居者の気持ちを把握し代弁者として家族に伝え、入居者と家族の良好な関係づくりを図っている。	家族の協力が得られない一人暮らしの入居者にも、楽しいひと時を持ってもらえるよう、馴染みの関係支援への工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者お一人おひとりの時間・スペースを大事にしながら、また、フロアでの時間をみんなで過ごし、気が合った方との時間も大事に過ごしていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設病院への入院時は、必ずお見舞いに行き様子を聞き、家族とも電話で状態の報告等連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを出来る限り傾聴し、それに添うようにつとめている。困難な場合は、家族の協力をお願いし、本人の思いなどをひきだす工夫をしている。	リビングでのくつろぎや入浴の待ち時間、食事時の会話から入居者の意向を把握する姿勢が感じ取れた。面会が少なく寡黙な入居者が、職員の「風呂に入りますか」の問いに、「入る。うれしか」と喜んで答えたことなども経過表に記録し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話や生活面、家族からの情報から、また、前施設の情報を収集して、これまでの生活ぶりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録(カルテ)の内容を活用し、申送りなどでもれなく伝達して、職員全員で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で日頃から気づいた事や感じたこと、また家族から聞いた事などを話し合い、ケアプランに家族の要望等を反映させている。	個人ごとに、介護計画・体調管理票・経過表などをまとめて綴じてあり、申し送りに使用されており、計画に沿った支援になっているかを確認出来る仕組みとなっている。家族の面会時に要望を聞き、計画の説明と同意のサインも貰っている。経過表は病院と様式を同じにして病院職員と共用し、医療情報が介護計画に反映させ易くなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時に職員間で個別に話し合い、確認をして、モニタリングやケアプランの見直しを3ヶ月毎、6ヶ月毎におこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の病院や老健施設と連携し、行事を合同で行うなど多機能性を生かすように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、ささえりあ、役場から情報を得て、支援に生かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院をかかりつけ医院とし、総合的医療を受けることができ、急変時や夜間にも対応出来ることで家族の信頼・安心感を得ている。	入居時に、緊急時や夜間の医療体制、協力医の往診や看護職員の協力関係を説明し、かかりつけ医を母体病院としている。専門医受診や歯科医往診も行われ、医療情報の共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには、看護師が常勤している。介護職員とは、報告・連絡・相談に努め、必要時には、併設病院に受診出来るよう外来看護師との連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院関係者と診療情報や生活情報の交換を行っている。また母体医療法人病院の外来看護師は、日頃より入居者をよく把握されていて心強い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合は、入居時に本人・家族に契約書での説明とおり母体法人の病院で対応している。ホームにおいては、看取りは、行っていない。	重度化や終末期の対応指針をもとに入居時に説明し同意を得ているが、今後、ホームでの看取りを行うことが検討されている。評価日当日に、体調不良の入居者に病院看護師が対応する場面があり、連携と協力の様子が見られた。家族アンケートにも医療への安心感が伺えた。	これまで看取りの経験がなく、職員の不安への対策や家族の協力などを確認する話し合いを進めることが重要と思われる。本来のケアも含めての職員体制の充実、看取りに関する研修等十分な準備の必要性が感じられた。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	申送りやケアカンファ、ホームの勉強会において、急変時の対応の仕方を病状に合わせ把握し合い、対応マニュアルも作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体でとGHだけの防火訓練をしている。通報訓練で職員間の協力体制を図っている。	一般道路より高台に位置するホームへの進路は急な勾配の道で繋がり、災害時の避難経路の確保に困難が予測される。運営推進会議でも議題に上がり災害に備えた具体的訓練の意見交換が行われている。法人全体でも具体的な避難の訓練が検討され、夜間想定訓練の予定がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護に努め、声掛けは、個人名でお呼びし、入浴・排泄時は、恥ずかしいことがないように、配慮している。	入居者によっては大きい声で会話することが必要な時もあるが、大声がトラウマになっている人もおり、一人ひとりに適した言葉かけに工夫している。排泄用品は人目に触れないよう居室押入れに収納している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりとコミュニケーションを多くとり、お互いが話しやすい関係を構築し、くつろいだ雰囲気なかで、本人が思いを訴えたり自己決定出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの思いや体調・環境を配慮し、個別的な支援を行っている。行事、レクの参加は入居者の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時には、本人の希望を聞き洋服などを選んで。毎木曜日は理美容の有料サービスを希望で利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	井上農園で育った野菜等を調理し、食べやすい形態を提供している。調理の下準備でニンジン・大根の皮むき、配膳の準備、テーブル拭きをお願いしている。	一人ひとりに適した量や形態の食事を提供し、自分のペースで完食できるように支援している。入居者と職員は同じ食事を一緒に食べていて、感想や希望のメニューを伝え合う関係が築かれている。調理・献立・食材仕入れは職員が行い、看護師は体重測定や血液検査結果などをもとに献立のチェックをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は、お一人おひとりに合わせている。食事量をチェックし、体重測定は、月に1回以上している。夜間も水分補給を介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に合ったケアをされている。就寝前は、イソジンガーグル使用をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンがそれぞれ違うので、時間で声掛け・誘導・介助を行っている。排泄の自立に向け、排泄動作は、できることは、お願いしている。	リビングからトイレへの動線が一直線でトイレへの移動も見守り易い。トイレ使用時は内側から鍵をかける入居者もいて、一人ひとりの排泄パターンに応じた見守りでさりげなく付き添う支援をしている。夜間は睡眠を妨げない事を前提に定時の誘導をしている。拒否時は申し送りをして、失敗の少ない支援を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を朝・夕の申送り時に行っている。野菜が多い献立にしている、水分を多めにとってもらい、歩いたり、体を動かしたり、毎朝、ラジオ体操をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルサインを確認し、週に2回以上の入浴を勧めている。個浴を基本にして、プライバシーに配慮している。	希望者は、週3回程度、鍵をかけて入浴したり夏場は毎日シャワー浴を楽しんでいる。脱衣場と洗い場にはそれぞれパネルヒーターがあり、適温下での入浴環境となっている。正方形で大型の浴槽には移乗用の台が取り付けられており、立位が出来る入居者は浴槽に入っている。冬場など心身機能低下者の入浴介助の困難さが伺えた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息・TV鑑賞・雑談など、自由に過ごしてもらっている。居室の電灯の明るさ、室温にも考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	外来受診をした後、処方される薬の名前・作用・副作用などの情報を薬剤師からもらい、職員に伝えている。薬に関して、2重チェックを行い飲み忘れのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝、居室の掃除・ゴミ捨てなど出来る力を発揮してもらい、玄関先の植木の水やり、草取り、きんかんちぎりなど職員と一緒に楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	併設施設の行事に参加したり、敷地内の菜園や鹿小屋にいたり、天気の良い日には、日向ぼっこをされている。家族面会時に一緒に外出したり、盆正月の外泊・外出などの機会作りを努めている。	以前の目標達成計画に「敷地外への外出」を揚げ、馴染みの深い神社や大型スーパーへ出かけている。リビングの開放的な窓から四季折々の風景を眺め、敷地内の老健の行事に出かけている。	家族の協力を得て要望に沿った外出をしているが、出来ない入居者もいる。介護計画に外出計画を取り入れ、ホームの自然環境を活かした散歩や外気浴・ドライブなど、戸外に出かける支援に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族がお預り金として預けているので、ノートで管理し必要なお金を出し入れしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、先方の迷惑にならない時間帯に電話を取次いでいる。耳の悪い方には、メモ紙に書いていただき面会時に手渡しすることがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周りの桜の花をながめ、テーブルを出してお茶にしたり、春の日を楽しまれる。	調理の様子をリビングから見ることができ、食事担当の職員は入居者と会話しながら食事を用意している。職員はテーブルやソファ・白板などを動線を邪魔しないよう配置し、来訪者の目線にも配慮した整理整頓を図っている。入居者は居室に戻っても直ぐにリビングでくつろぐ事が多く、人の気配と職員との会話などの雰囲気を楽しんでいる様子が伺える。	時計やカレンダーなどは入居者の見やすい位置に取り付ける等して、時間や日時、文字への理解度を知る機会をつくり、自立に活かせる支援に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数カ月に一度テーブルを並べ替え全体が見えるようにし、みなさんに声掛けしやすいよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで身近に置かれていた愛着のある家具等を持ち込み、ある人は、お位牌を持参されている。また、亡くなったご主人様と一緒に写った写真を持ち込まれている。	居室の環境づくりの担当職員を決め、家族と一緒に入居者の安心・安全な部屋作りをしている。退居者の寄贈した家具類は入居者の背景に配慮して設置しており、洋服掛けなどもその人らしさを演出している。	一人暮らしの入居者など家族の協力が得られない場合は、アセスメント情報や日々の会話の中から好みのものを見つけ、温かみのある部屋作りを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたんだり、ほうきを渡して一緒に掃除をお願いしている。また、下膳、テーブル拭きなど出来る限り、自立した生活が出来るよう工夫している。		